



**問** 学校施設整備事業としてのバリアフリー化改修の具体的内容は

令和6年度当初予算の概要によると、学校施設の整備として、12億7,566万5千円の予算計上で、維持補修事業3件（長寿命化改修事業・改修特別推進事業・整備事業）があげられている。そのうちの「学校施設整備事業（予算額：8,271万3千円）」におけるバリアフリー化改修の具体的内容について問う。

**答** 単独整備でのバリアフリー化に取り組む

学校施設整備事業の内容としては、バリアフリー化改修及び消防設備改修が主なものになる。これまで津市の学校施設のバリアフリー化は長寿命化改修と一体的に進めてきたが、中学校においては、生徒の成長とともに身体も大きくなり、生徒自身の移動や介助者の負担も増大することから、その負担軽減を図るため、新たに単独整備でのバリアフリー化に取り組むものである。令和6年度は、バリアフリー化改修として中学校1校（西郊中学校）の設計業務に係る事業費を当初予算に計上している。

その他の質疑・質問

- 外国人児童生徒支援事業「就学前日本語教室『つむぎ』」に関して
  - 敬和幼稚園会場及び高茶屋小学校会場での活動内容について
  - 教室運営に関わる職員体制について
- 応急診療所管理運営事業に関して
  - 津市応急クリニック等の運用について など

就学前日本語教室「つむぎ」の様子。2会場合わせて75名の参加申し込みがあった



**問** 能登半島地震を踏まえ、市として検討し直すべきことはないか

今回の能登半島地震では、昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた建物だけでなく、昭和56年6月以降の新耐震基準で建てられた建物も倒壊した事例があるので、新耐震基準で建てられた建物に対する耐震診断にも支援を拡大してはどうか。

また、避難所における赤ちゃんの避難スペースを確保するため、赤ちゃん用の段ボールベッドを備蓄してはどうか。

**答** 今回の地震で得た教訓を基に必要に応じて検討していく

現在国が示している耐震化の目標については、旧耐震基準に基づく木造住宅の耐震性の有無を分析しており、津市では旧耐震基準木造住宅の耐震化に一層注力していく。新耐震基準木造住宅の耐震化の支援については、国の動向を注視し、県などと情報交換を行いながら、次期耐震改修促進計画の策定に向けて検討していく。

また、赤ちゃん用の段ボールベッドについては、現在避難所に備蓄はしていないが、発災後、避難所の状況により必要に応じて確保するものと考えており、災害時応援協定に基づき、早い段階で必要な数量を確保していく。

その他の質疑・質問

- 森林環境譲与税事業と耐震化促進事業について
- 地域防災力強化のための人材育成について
- 学校における防災について
- 中学生の放課後の居場所づくりの考えは
- 学校健診の配慮について
- こども大綱を踏まえ、こども・若者・子育て当事者の意見聴取に対する本市の取り組みは など

子どもへの配慮として、避難所にも赤ちゃんのスペース確保の赤ちゃん用段ボールベッドを

